

平成 17 年度当初予算 重点プログラム別概要

絆 3 : 熊野古道の保全と活用による地域活性化プログラム

(主担当部局 : 地域振興部)

- (1) 世界遺産(熊野古道)対策推進事業
- (2) 熊野古道集客交流推進事業
- (3) 熊野古道中学生等交流事業

< プログラムの事業費 >

(単位 : 千円)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	3 か年計
当初計画	825,792	1,809,000	543,000	3,178,000 程度
見直し後	411,512	1,337,193	1,846,000	3,594,705

注 : 見直し後の 16 年度は 12 月補正後予算額、17 年度は当初予算額、18 年度は同見込額
16 年度見直し後には、16 年度最終補正対応予定分 (464,679 千円) を含む。

< 事業目標の見込み > 1 月末時点で把握できる見込み値を示しています。

目標項目		平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
(1) 熊野古道の来訪者数	目標値	1 5 万人	1 7 万人	1 8 万人
	実績値	1 5 万人		
(2) 東紀州地域の宿泊者数	目標値	2 5 万人	2 7 万人	2 9 万人
	実績値	2 1 万人		
(3) 中学生交流会・発表会への参加学校数	目標値	5 校	7 校	9 校
	実績値	4 校		

< 進捗状況 (現状と課題) >

- ・世界遺産に登録された熊野古道の保全と活用の一層の推進を図るため、住民・市町村等と協働で策定した「熊野古道アクションプログラム」の考え方に基づき住民や市町村と協働で各種プロジェクト等を実施しています。
引き続きその保全と活用に取り組んでいくとともに、県民全体のかげがえのない歴史的・文化的遺産であるとの認識や理解に努めていく必要があります。
- ・熊野古道を始めとする様々な地域資源の有効活用策を展開し、集客交流を推進して、東紀州地域の活性化につなげることが課題となっています。

< 平成 17 年度の実行方向 >

- ・今後は、これまでの取組に加えて、東紀州のもつ歴史や生活文化などを活かしつつ、熊野古道伊勢路の魅力を発信するための熊野古道ツーリズムを実施していきます。
- ・熊野古道センター (仮称) の整備を進めるほか、紀南集客交流プロデュース事業や紀南中核的交流施設の整備支援等に取り組めます。

- ・熊野古道の恵まれた自然や歴史・文化等について理解を深め、次代につなげていくため、熊野古道をテーマとした教育活動を実施し、それらを通じて、すばらしさを発信します。

< 主な事業 >

新熊野古道ツーリズム事業【17年度当初予算額 27,496千円】

(事業(1)の一部)

世界遺産に登録され、注目度の高まる熊野古道を単なる観光資源とするのではなく、古道を取り巻く自然や生活、文化など地域の特性を感じ、学び、楽しむカルチャーツーリズムの一環としての「熊野古道ツーリズム」を推進します。

紀南集客交流推進事業費【17年度当初予算額 22,447千円】

(事業(2)の一部)

「紀南地域の振興策」を基本として、熊野古道を中心とした地域資源の活用を図りながら、集客交流の基盤整備や体制づくりを進めます。

中核的交流施設整備事業費【17年度当初予算額 630,004千円】

(事業(2)の一部)

「紀南地域の振興策」の提言に基づき、集客交流の推進に向け、民間事業者が整備運営する中核となる交流施設の整備支援等に取り組みます。

熊野古道センター(仮称)整備事業費【17年度当初予算額 613,710千円】

(事業(2)の一部)

東紀州の集客交流のための情報拠点となる熊野古道センター(仮称)の建設工事、展示工事、運営計画の策定など、ソフト・ハードの両面から事業を進め、平成19年初頭のオープンを目指して、整備を推進します。

熊野古道中学生等交流事業【17年度当初予算額 1,613千円】

世界遺産である熊野古道の恵まれた自然や歴史・文化等を本県の貴重な教育資源ととらえ、県内の中学生が古道を歩き、その歴史や文化を調べるなどの体験的な学習を行うとともに、交流会を開催します。